身を切る改革、維新だからできる。

日本維新の会

日本維新の会 名古屋市会議員（名東区選出）

大島ひでひろ 市政報告 vol.5

～古い政治を壊す。新しい政治を創る。～

いつもありがとうございます

名古屋市議会では、令和6年度最初の定例会が
6月19日-7月4日まで開催。
「能登半島地震に関する被災地域応援」、
「医療的ケア児受け入れに関する支援」など、
およそ55億円の補正予算が成立しました。
大島は、今年度から所属する委員会も変わり、
常任委員会は「教育子ども委員会」
特別委員会は「産業・歴史文化・観光戦略特別委員会」
にて、それぞれ審議・議論を行うこととなりました。
市議会に送っていただき2年目。これまでも議会で
様々な質問や議論をぶつけてまいりましたが、
これまで以上に、1つでも多くの成果に繋がるように。
相変わらず、維新の議員は名古屋でたった一人。
小さな小さな存在ですが、議会の中で存在感を
発揮できるよう、精進してまいります。

大島ひでひろ

昭和60年名古屋市生まれ/愛知県立明和高校、中央大学法学部卒/
郵便局㈱（現・日本郵便㈱）入社後、社長秘書、経営企画部など歴任/
愛知維新の会事務局次長を経て、令和5年名古屋市会議員選挙（名東区）初当選/
現所属：日本維新の会名古屋市議団、愛知維新の会幹事長代行

皆様の声をお聞かせください！

『大島ひでひろ市政報告』をご覧いただき、誠にありがとうございます。
皆様の声を市政に届け、より良い名古屋をつくるための仕事をしてまいります。市政へのご意見やお困りごとなどございましたら、
お気軽にメール（hidehiro.oshima.ra@gmail.com）または、
公式LINE（右記QRコード）までご連絡ください。
どんな内容でも、お気軽にお問い合わせください！

公式LINE

発行責任者：名古屋市会議員　大島 英勲
〒465-0047 名古屋市名東区小池町60三和マンション1階
Tel/070-8909-9716　Fax/050-3094-8895
E-mail/hidehiro.oshima.ra@gmail.com

各SNSで市政情報など日々発信中！
フォロー・いいね！お願いします！
大島ひでひろ

6月定例会個人質問「いじめ問題再調査委員会」

名古屋では、以前から子どもたちが学校や教育現場で
悩み、苦しみ、時として自ら命を絶つという
悲しい事件が何度となく起こってきました。
そうした経験から、問題を客観的に調査するための
「いじめ問題再調査委員会」が、常設組織として
設置されています。
しかし近年においても、名古屋で起こるいじめや、
若年層の自死の件数は、減っていないのが実態です。
では、再調査委員会はどのように機能しているのか。
市の幹部、そして河村市長に考えを質しました。

1. ブラックボックスをつくってはいけない。

大島ひでひろ

名古屋の再調査委員会では、会議の様子や議事録は
一切非公開。質問にあたって、過去の議事録を要求したら
大半のページが真っ黒に塗りつぶされた状態。
「調査報告書が公開されるから問題ない」
「しかるべき立場の方が委員になっているから、大丈夫」
というのが、市のスタンス。
しかし、その調査報告書が被害者の意向により「非公表」と
なったケースもある。およそ2,000万円の市税を投入し、
極めて大切なミッションを負う再調査委員会の仕事ぶりが
市民の目に触れず、議会にも諮られず、一切外部の目で
評価・検証を行うことができなくなってしまう。
我々が考えねばならないのは、この名古屋で、二度と子どもが
自ら命を落とすという悲劇を起こさないため、「行政が
すべきことは死に物狂いになって取り組む」ことではないか。
速やかに、今後の対応を検討すべきでは。

再調査委員会の会議内容については、様々な視点で率直に
意見交換をしていただくこと等のため、非公開としている。
また、調査報告書の公表については、事案の対象児童・保護者の
ご意向も十分に配慮されなければならない。
今後については、公表のあり方含め、国においていじめの重大
事態の調査に関するガイドラインの見直しについても検討
されているので、その内容を踏まえ、さらに検討を深めていく。

子ども青少年局長

2. 市のトップである河村市長の受け止めは。

大島ひでひろ

最近では、被害者の方が望んでも、市長の判断で
再調査委員会への諮問自体が見送られた事例もあった。
子どもの命を守り、二度と同じ悲劇をこの名古屋で起こさ
ない。その観点に照らし、設置から一年以上が経過した、
現在の「いじめ問題再調査委員会」のあり方について、
かねがね「一人の子どもも死なせないマチ ナゴヤ」を掲げる
河村市長はどのような評価・見解か。

大変難しい問題。そうならないようにと思って、
スクールカウンセラーを置いて熱を入れて対応している。
再調査委員会については「加害者の名前が出ないように」
と非常に心配する。学校側も非常に消極的。
とはいっても「一人の子どもも死なせない」というのは、
大変重要な宣言、実現せねばならない。
せっかく質問をされたので、サボらず考える。
時間をいただきたい。

河村市長

ちょこっと解説;「いじめ問題再調査委員会」

「いじめ問題再調査委員会」は、令和4年に
教育委員会から独立した、市長の附属機関として
設置。「附属機関」の会議は、条例で「原則公開、
例外的に非公開も認める」と定められています。
いじめ問題は、扱う内容の性質上、様々配慮すべき
事柄がある、大変難しい問題。
しかし「難しい、難しい」と言って、誰も触れることの
できないブラックボックスをつくってしまうことは、
本当に望ましいことでしょうか。行政の理屈ではなく、
真に子どもの命と向き合い、覚悟を持った取り組みが
必須です。その意味で、今回の答弁は満足できるもの
ではなく、今後も継続して、状況を注視してまいります。

↑真っ黒に塗りつぶされた議事録

※質問の詳しい様子は、動画をYoutubeにアップ →
している。ぜひ右記QRコードからご覧いただき、 →
ご意見などいただけたら嬉しいです! →